



中田小

学校教育目標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

平成27年11月30日

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>



『冬景色』

文部省唱歌 (作詞作曲不詳)

校長 蒲谷 猛

さ霧消ゆる 湊江の
舟に白し 朝の霜
ただ水鳥の 声はして
いまだ覚めず 岸の家

鳥啼きて 木に高く
人は畑に 麦を踏む
げに小春日の のどけしや
かへり咲の 花も見ゆ

嵐吹きて 雲は落ち
時雨降りて 日は暮れぬ
若し灯火の 漏れ来(こ)ずば
それと分かじ 野辺の里



蛍光灯がなくなる日

「ゼロエネルギー住宅」の導入がニュースになりました。その一環として検討されている、蛍光灯や白熱灯の生産を事実上禁止する制度改正が話題になっています。省エネのためにLEDへの置き換えを推進するための施策です。蛍光灯や白熱灯が家庭から消える日が数年後にやってくるのでしょうか。

過日、朝会で、SF映画『バック・トゥー・ザ・フューチャー2』で主人公がタイムトラベルする先が2015年の10月15日であること、そして、その映画のなかで描かれていた未来技術のうち、実現している物がかなりあることについて話をしました。タブレット型のコンピュータや手を使わないゲームなどは今や身近ですし、自動でひもが締まるシューズも、宙に浮くスケートボード(限定的な条件下ですが)も、現実に開発されているそうです。映画が公開されたのが1985年ですから、30年間でいかに科学が大きく進歩したかがわかります。

また、米デューク大学の研究者であるキャシー・デビッドソン氏は、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に、『今は存在していない職業』に就くだろう」と予測しています。ICT化が急速に進み、職業にも変化が起きています。現在の職業の内、機械やコンピュータが人間に代わっていく職業もあるでしょう。また、情報化社会のなかで、あらたに生まれる仕事もあります。65%というのはアメリカ社会での予測数字ですから、日本でそのまま当てはまるかは疑問ですが、現在、本校に在学している子どもたちが仕事に就くときまでには、これまでの10~15年以上の急速な変化があるであろうことは容易に想像できます。

子どもたちの未来での活躍を考えると、19世紀末から百年以上も続く、『小学生から大学に向かって、少しずつ知識や技能を積み重ねる』という教育システムは変わらなければならないと、私は思っています。全員が黒板に向かって列をつくっている授業風景も、世界的に見ればもうそう多くはありません。

蛍光灯の話から、随分と話がふくらんでしまいました。これからの教育がどう変わっていくのかはわかりませんが、今できることも確かにあると思います。本校において、「自分の考えをもつこと」、「それを表現する力を高めること」、また、「人の考えにふれて自分の考えを深めること」を大切にしながら授業を展開しようとしているのも、一つの試みです。人が協働して創造性を発揮する営みは未来にも消えることはないと思うからです。これからも、地道に、今考えられる取組を進めていきたいと考えています。